

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

土木学会論文報告集

No. 202, 1972-6

接合部における連続条件の一般的表現とその

応用 秋山成興 1

軸力の影響を考慮した平面剛、滑節構造物の

一自動弾塑性解析 星治雄
児嶋平 弘行 11
尾潔

材料非線形有限要素解析の一手法について 川本聰
宮池克 万人 25

有限水深の波による矩形断面物体の運動と波

の変形 井島修
田淵村 武幹や 33
湯村 修す

ろ層内固液分離現象の解明 篠原紀 49

粘土のクリープ破壊に関する実験的研究 栗原則夫 59

空港 Extended Control System のシミュ

レーションモデルに関する研究 吉川和昇
木俣 広昇 73

定変形二軸圧縮供試体内の応力分布におよぼ

す載荷径路、端面摩擦の影響 中川浩二
小林昭一 丹羽義次 85

掘削刃先の土砂による摩耗形状変化特性に関

する一考察 皇室昭達 郎朗 91

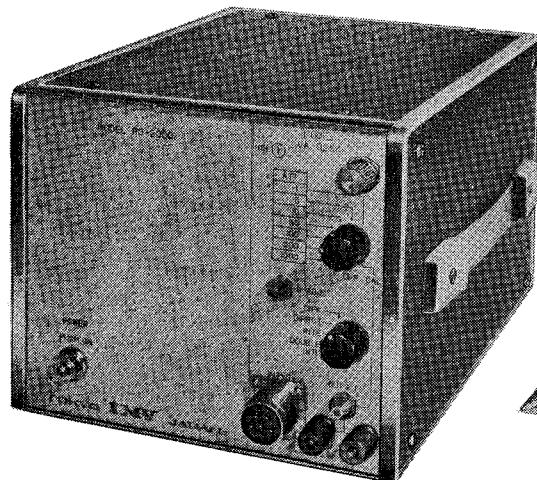
太径鉄筋の使用に関する研究 国岡正胤

村 正胤 103

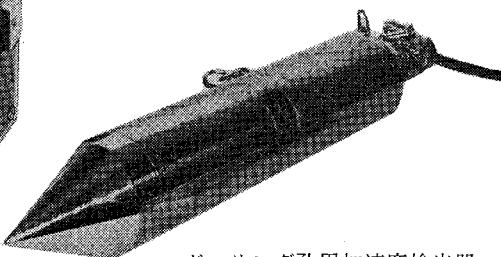
突風の空間的乱流構造に関する理論的研究(英文) 日野幹雄 115



IMV ボーリング孔用地震計測装置 SW-9259



増幅器および電源部



ボーリング孔用加速度検出器

SW-9259加速度型地震計は、地上でも地中でも、地震計測が行えるように新しく設計された地震計です。検出器は水平方向と垂直方向の地震を地上と地中において検出する圧電型加速度検出器VP-9259H(V)を用いています。

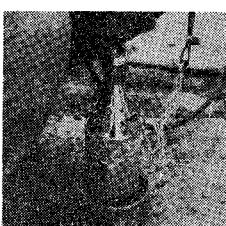
地中の地震波形を観測するために、検出器設置用のボーリングを行い、このボーリング孔中に、水平方

向検出器を設置し、この出力を観測室等に設置されている増幅器で増幅します。出力波形を記録計等に接続することにより長期にわたって観測を行えるタイプになっています。

3素子、6素子の多点計測も可能になっており、記録計は同時に動作させることができます。この装置には自動起動装置を併用できます。



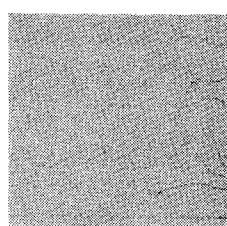
検出器埋設孔穿掘



検出器埋設中



検出器埋設完了 3 ch



地震波形 6 ch

〈カタログ・資料進呈〉

- 振動試験装置
- 音響計測装置
- 振動計測装置
- 周波数分析装置
- 振動解析装置
- 動釣合試験機
- 地震計測装置
- 電機計測装置

IMV
株式会社 國際機械振動研究所

本社/大阪市北区野崎町48森ビル 06(312)1978㈹
支社/東京都千代田区三崎町2の6の1 IMVビル 03(262)6311㈹
営業所/大阪 06(372)3296㈹ 名古屋 052(251)7708・2778
日立 0294(52)3069
工場/東京・大阪

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

No. 202, June 1972

C O N T E N T S

The General Expressions for the Continuity Conditions on the Structural Junctions, and Their Applications

By Noriaki Akiyama 1

An Automatic Elastic-Plastic Analysis of Plane Structures Considering the Effect of Axial Force.

By Haruo Hoshi, Hiroyuki Kojima and Kiyoshi Hirao 11

A Technique of Material Nonlinear Finite Element Analysis

By Toshikazu Kawamoto and Yoshihito Miyake 25

Scattering of Surface Waves and the Motions of a Rectangular Body by Waves in Finite Water Depth

By Takeshi Ijima, Yoshinobu Tabuchi and Yasu Yumura 33

On the Mixed Liquor Solids Separation in Filter

By Omamu Shinohara 49

Experimental Study on Creep Rupture of Clays

By Norio Kurihara 59

Study on Simulation Model of Airport Extended Control System

By Kazuhiko Yashikawa and Noboru Kimata 73

The Influences of Loading Pass and End Friction on the Stress Distributions in Two Dimensional Bi-Axially Compressed Specimen

By Koji Nakagawa, Shoichi Kobayashi and Yoshiji Niwa 85

Wear Characteristics of the Edge of Blade by Sandy Soil

By Shōjirō Hata and Tasturō Muro 91

Use of Large-Sized Deformed Bars in Reinforced Concrete

By Masatane Kokubu and Hajime Okamura 103

Theoretical Argument on Turbulent Structure of Gusty Wind

By Mikio Hino 115

The Japan Society of Civil Engineers

Yotsuya 1-chome Shinjuku-ku, Tokyo

JAPAN

土木学会論文報告集投稿要項要約

1. 投稿者：本会会員、ただし連名の場合は1人以上が会員であること。
2. 原稿提出期日：随時
3. 原稿の書き方について：土木学会投稿の手引き第3章参照。
 - 提出部数：正原稿（図・表・写真とも）および複写3通。
 - 図表について：正図はそのまま製版できるよう白か透明の紙に縮尺を考慮して必ずスミ入れする（線図・文字・符号などすべてスミ入れすること）。
 - 表は原則として活字で組むが、表の中に図が入る場合、複雑な表はすべてスミ入れするものとする。
4. 論文報告の長さ：論文報告1編の長さは原則として刷上り図表を含み10ページ以内とする。ただし、6ページまでの超過は認めるが、その費用はすべて著者の実費負担とする。
5. 和文要旨について：和文要旨は図・表・写真を含み刷り上り0.5ページ(800字～900字)として4部提出する。
6. 討議について：討議は土木学会論文報告集に掲載されたものを対象とし、論文報告集掲載後6カ月以内を原則とする。
7. 査読について：査読は次の5部門で行なうので投稿原稿はどの部門に属するかを明記する。

第1部門：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等

第2部門：水理学・水門学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学等

第3部門：土質力学・基礎工学・岩盤力学等

第4部門：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等

第5部門：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

土木学会論文集編集委員会

◎印主査 ○印幹事

委員長	前田幸雄	副委員長	◎久野悟郎	委員	淮満宏	委員	美治三弘	委員	成谷正章	之二弘夫
委員	青柳征夫	委員	大河原国	員	博英	員	二折晴史	員	松伯	彦洋正
青柳	赤松惟	委員	荻原俊雄	須鈴	堯康	員	夫	宮原	谷井浦野	章元
柳	伊藤中央	委員	加来崎博	高尾	孝	夫	夫	田中	田中	弘幸
柳	池田尚	委員	柿川口昌	木高	不	夫	夫	新室	新室	宏
石橋	石橋毅	委員	金子光美	松高	良	夫	夫	森守	守	孝
茨木	茨木龍雄	委員	河島恒和	岐山	高	夫	夫	屋山	屋山	幸
木	○稻葉誠一	委員	工藤和男	村村	英良	夫	夫	安田	安田	誠
稻葉	今正美	委員	倉島和	中中	良	夫	夫	内田	内田	進
葉	岡崎敏	委員	小川村	山村	紀	夫	夫	吉田	吉田	裕
岡	○岩間敏滋	委員	小池尉	坂	普	美夫	夫	安吉	安吉	明
間	遠田良喜	委員	駒田敬一	永	義	守	守	○和田	○和田	忠
田	宇井純	委員	合田良実	井	郎	夫	夫	辺渡	辺渡	啓
井	上田勝基	委員	沢口正俊	波	重	守				
上	小川裕章	委員	佐藤敦久	木	靖					
小	岡村甫	委員	斎田登	波	波					

土木学会論文報告集 No. 202

定価 450 円 (税 40 円)

昭和 47 年 6 月 15 日 印刷

昭和 47 年 6 月 20 日 発行

発行者 東京都新宿区四谷1丁目

社団 法人 土木学会専務理事 下村肇

発行所 社団 法人 土木学会 郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 振替東京16828番
電話 (03) 351-5138